

計画概要

計画名

安心・安全に暮らしていける災害に強いまちづくり

計画期間

平成27年度～平成31年度(5年間)

計画目標

大規模地震対策として耐震性貯水槽の整備、避難場所となる公園の整備を進め、災害に強いまちづくりを推進するものである。

また、小学校1km以内にある道路を整備することにより、住民が災害時に耐震性貯水槽がある小学校に安全な避難路で避難することができ、災害に強いまちづくりを推進するものである。

事後評価概要①

実施体制

策定主体である建設産業部都市計画課、事業実施した建設産業部都市整備課、市長公室危機管理課で事後評価を実施。

実施時期

令和3年5月

実施事業費(計画事業費)

691百万円 (698百万円)

事業効果の発現状況

- ・耐震性貯水槽を整備したことで、水道管の耐震化が未着手である区域の3つの小学校で被災後の応急給水が可能となった。
- ・公園の造成を2箇所完了したことで、津波発生時の一時的避難所の不足を解消することができた。
- ・市民意識調査の結果、「安全な道路交通環境」の満足度は目標値を下回ったが、避難路を計576.5m整備しており、安全な避難路を確保することができた。
- ・ハザードマップを全戸配布することで、災害に対する意識啓発を行い、災害意識の向上を図ることができた。
- ・小学校から1km以内の道路と水路が平行している区間を対象に整備を進めたことで、通学路の安全性の強化を図ることができた。

事後評価概要②

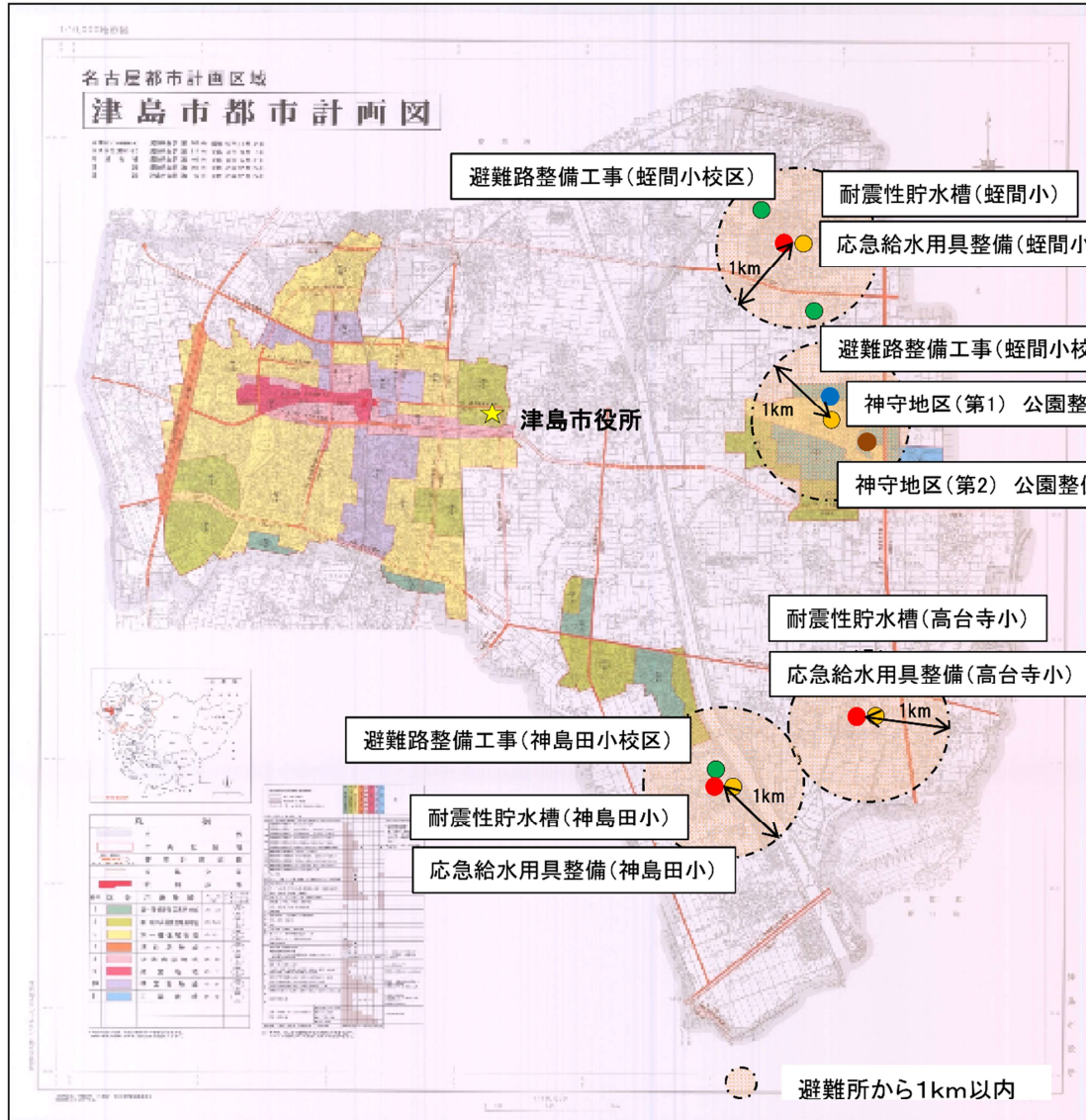
定量的目標値の達成状況

	目標内容	目標値	実績値
1	耐震性貯水槽の整備による飲料水の供給可能人口の増加数 40m ³ /基÷((3リットル/人・日)×3日分)	31,200人	31,200人
2	発災後の初期段階で必要な避難場所の収容人数の増加数 1,000人(第1公園)+700人(第2公園)=1,700人	5,600人	5,600人
3	市民アンケート調査における設問のうち「安全な道路交通境」の満足度向上 満足度割合(%)=「満足」「やや満足」の回答者数/全回答者	30%	15%

今後の方針

引き続き、安全・安心に暮らしていける災害に強いまちを目指すため、令和3年度から新たな計画を策定し、防災公園、避難路の整備を進める。

計画箇所図



基幹事業

- 1-A-1 都市防災総合推進事業(地区公共施設整備)
事業期間 H28~H31
- 耐震性貯水槽設置 3箇所(蛭間小、高台寺小、神島田小)
 - 神守地区 神守第1公園整備 (A=0.25ha) 1箇所(造成工事)
 - 神守地区 神守第2公園整備 (A=0.18ha) 1箇所(造成工事)
 - 避難路整備工事 (L=490m) (蛭間小、神島田小)

効果促進事業

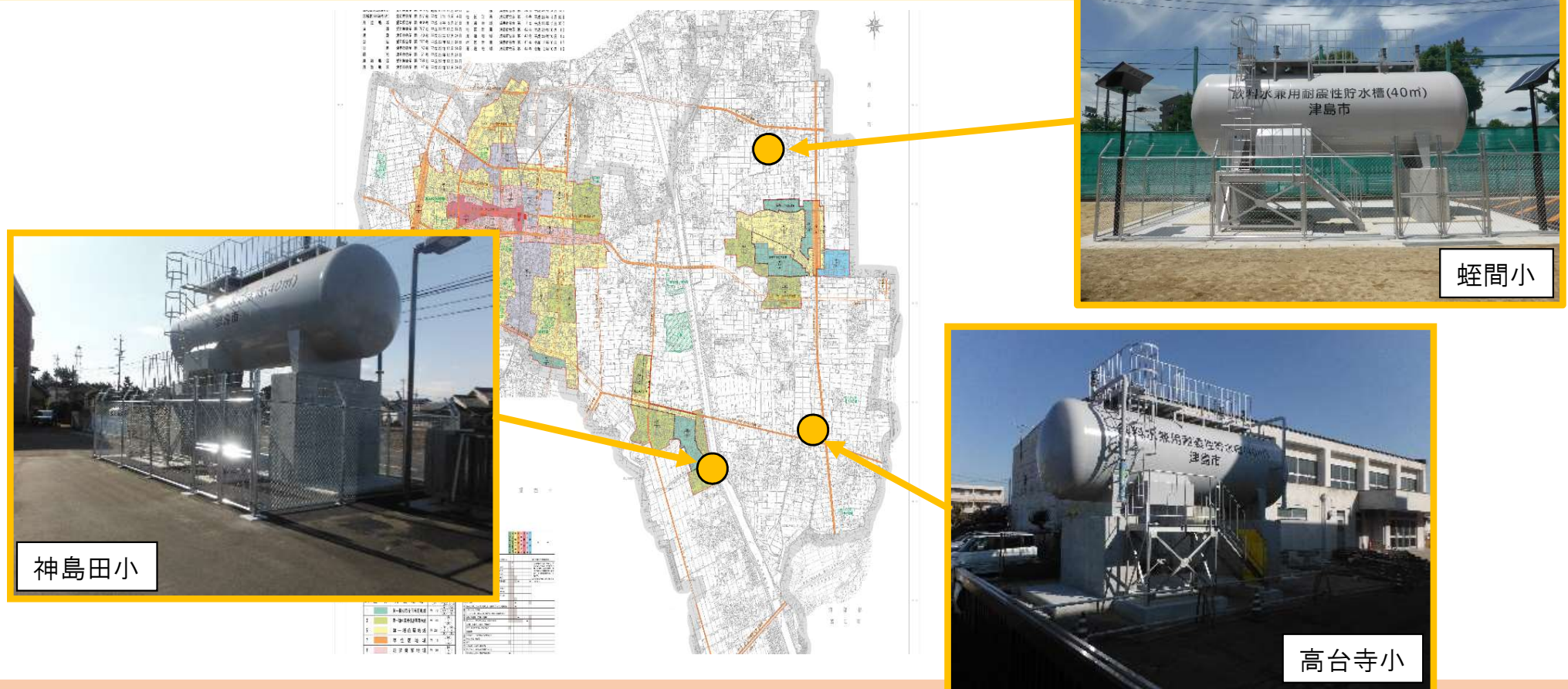
- 1-C-1 市民防災意識向上事業
・ハザードマップ作成事業
事業期間 H27

- 1-C-2 器具購入事業
● 応急給水用具整備事業 3小学校
事業期間 H31

事業実施事例（耐震性貯水槽整備）

事業内容

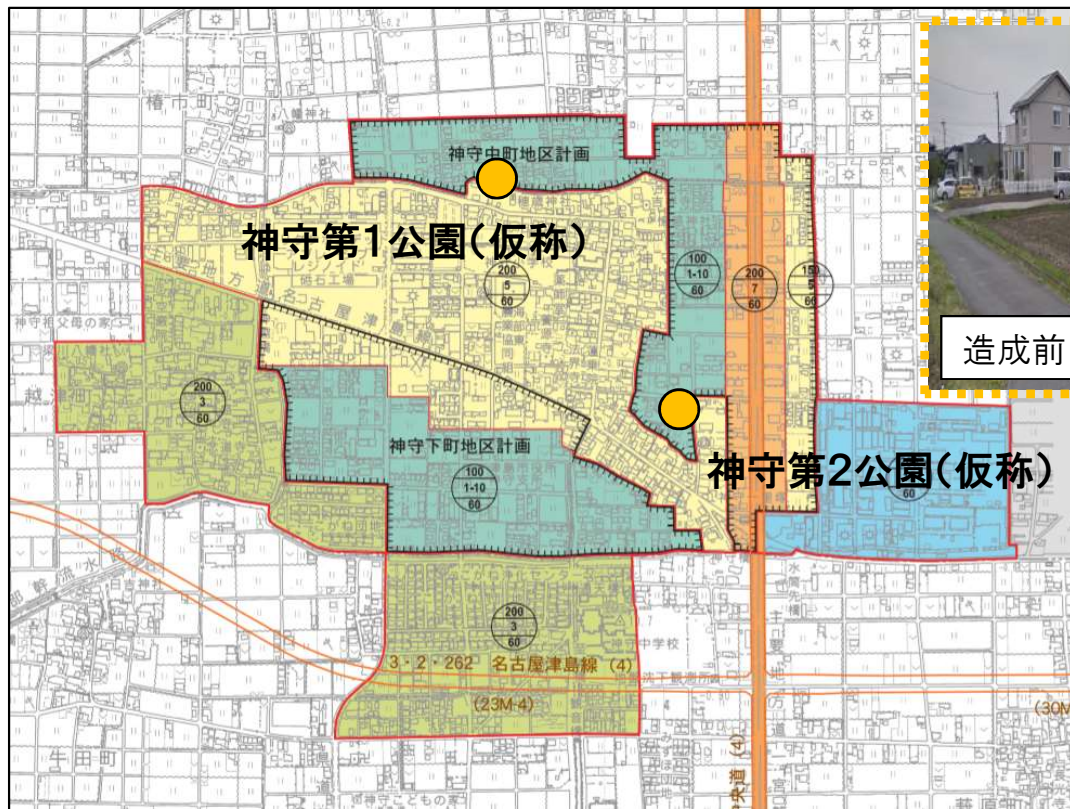
大規模地震対策として耐震性貯水槽の整備し、被災後の飲料水を確保することで災害に強いまちづくりを推進するものである。



事業実施事例（防災公園整備）

事業内容

大規模地震対策として避難場所となる公園の整備を進め、災害に強いまちづくりを推進するものである。



引き続き次期計画で
防災公園として整備予定



高台盛土を造成

事業実施事例（避難路整備）

事業内容

避難場所である小学校1km以内にある道路を整備することにより、安全な避難路を確保することができ、災害に強いまちづくりを推進するものである。



避難路及び通学路の
安全を確保

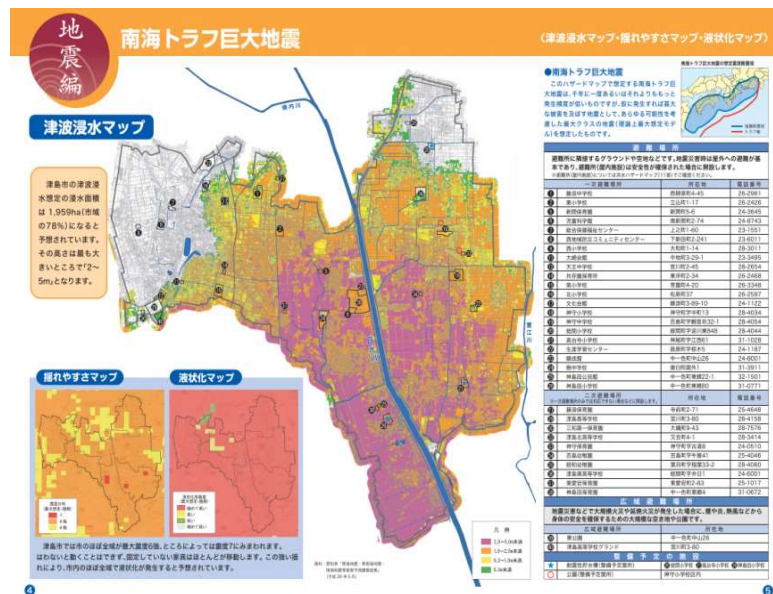
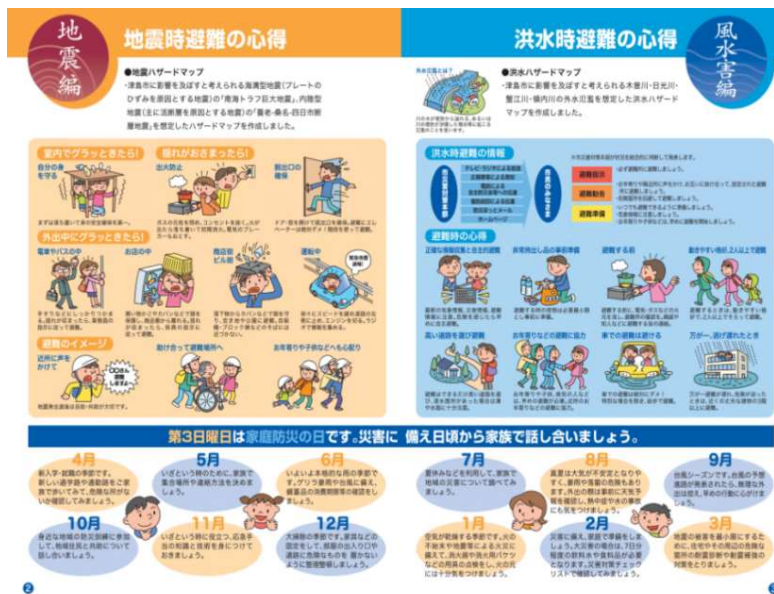
水路を歩道へ整備し
道路を拡幅



事業実施事例（ハザードマップ作成・配布）

事業内容

ハザードマップを作成し、全戸配布することで、災害に対する意識啓発を行い、災害意識の向上を図る。



津島市防災ハザードマップ

※最新版ハザードマップは市ホームページで公表しています。